

京都市はぐくみ推進審議会令和5年度第1回「子どもの健全育成推進部会」 摘録

- 1 日 時 令和5年8月29日（火） 10:00～12:00
- 2 会 場 職員会館かもがわ 2階 大会議室
- 3 出席者 部会長 神部 純一 （滋賀大学教育学部教授）
委 員 和泉 景子 （市民公募委員）
" 稲川 昌実 （公益社団法人京都市児童館学童連盟会長）
" 木戸 玲子 （公益社団法人京都市児童館学童連盟施設長会副会長）
" 國重 晴彦 （公益社団法人京都市児童館学童連盟健全育成・子育て支援統括監）
" 田島 知世 （京都市立小学校PTA連絡協議会庶務）
" 中西 智佳 （京都市小学校長会副会長（京都市立朱雀第二小学校長））
" 藤原 浩 （京都市小学校長会会計（京都市立太秦小学校長））
- 4 欠席者 " 谷口 かおり （京都市立中学校PTA連絡協議会会計）
" 永澤 萌絵 （市民公募委員）

【※部会長を除き五十音順。敬称略】

- 5 議 題 次期計画策定に向けた調査について

6 配布資料

- 資料1 委員一覧
- 資料2 次期計画策定に向けた調査について
- 別紙1 次期計画策定に向けた調査一覧
- 別紙2 前回及び今回調査の比較
- 別紙3 令和5年度に実施する調査の関係性
- 資料3-1 （前回調査との）調査項目比較一覧表（小学生）
- 資料3-2 【今回調査案】放課後の過ごし方等に関する調査（小学生）
- 資料3-3 【前回調査票】放課後の過ごし方等に関する調査（小学生）

7 参考資料

- ・ （前回調査との）調査項目比較一覧表（総合支援学校）
- ・ 【今回調査案】放課後の過ごし方等に関する調査（総合支援学校）
- ・ 【前回調査票】放課後の過ごし方等に関する調査（総合支援学校）
- ・ 前回調査結果
- ・ 京都市はぐくみ推進審議会条例・施行規則・運営要綱
- ・ 令和2～6年度「京都市はぐくみプラン」

事務局 子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部育成推進課

（塩山子ども若者未来部長、齋藤育成推進課長、藤田担当課長、大野担当課長 他）

神部会長	議題「次期計画策定に向けた調査」について審議する。 「放課後の過ごし方等に関する調査」について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(資料に基づき説明) ＜資料２次期計画策定に向けた調査について＞ ＜資料３放課後の過ごし方等に関する調査＞ ＜その他参考資料＞
事務局	本日の審議を円滑に進めるため、委員の皆様には事前に調査票案を送付している。 調査票案を御覧いただき、御意見いただきたい。
藤原委員	【資料３－２】「回答にあたってのお願い」について 各設問について、保護者の考えが優先される設問もあるため、冒頭の「回答にあたってのお願い」の「１．このアンケートは、保護者の方がお子さまにも聞きながらご回答ください。」に修正した方がよいのではないか。
國重委員	【資料３－２】「問３」について 兄弟又は姉妹が家にいることを理由に子どもが放課後自宅に居るケースも多い。選択肢に「兄弟（姉妹）」を追加してはどうか。
木戸委員	追加するのであれば、選択肢上の表記は、ひらがながよい。
田島委員	「兄弟（姉妹）」の年齢により、過ごし方に変化が出てくると思われるが、選択肢で兄弟（姉妹）の年齢を区別する必要はないか。
神部会長	大まかな属性を問う設問のため、年齢で区別する必要はないであろう。分析上、年齢を区別することが必要な場合もあるかもしれないが、事務局いかがか。
事務局	「問６（２） お子さまは、それぞれどなたと過ごすことが多いですか。」の中で、選択肢にそれぞれ、「兄・姉」、「弟・妹」を設けており、兄弟（姉妹）の年齢の区分については、調査の対象となる児童を中心にある程度読み取れる予定である。
國重委員	【資料３－２】「問４～問５」について 設問の選択肢のうち、「３．就労していない」、「４．就労したいができない」と選択肢があるが、選択肢「３」は客観的な状況であるのに対し、選択肢「４」は主観的であり、同列に並べるべき選択肢ではないと考える。就労状況の属性を問う設問であるので選択肢「４」は不要ではないか。

事務局	基礎調査のため、全体的な傾向を見るための設問として設定している。また、「問6」での設問と関連させて「自宅で過ごしている」と答えたこどもの保護者の就労状況を分析することを目的としている。
國重委員	就労状況の把握ということであれば、「専業主婦（夫）」、「求職中」の選択肢を設けるとよいのではないかと。就労したいができない」という選択肢は不要と思うが、自ら選んで就労していないのか、それとも求職中なのかは、選択肢で区別するとよい。
和泉委員	「その他」が多いと調査票に書き込む負担が大きくなってしまうため、「求職中」という選択肢があった方が負担も軽くなるのではないかと。
神部会長	「就労したいができない」という選択肢の代わりに「求職中」という選択肢を加えてはどうか。部会としては、「就労したいができない」という選択肢を削除し、「求職中」という選択肢を加えることを提案したい。また、問4、問5について複数回答は想定されないのではないかと。
事務局	設問及び選択肢の意図を含め、一旦持ち帰って検討したい。当設問における回答方法については、御指摘のとおり択一の回答で検討する。
國重委員	【資料3-2】「問6(1)」について 選択肢に「⑫ 民間の学童保育」とあるが、問7の選択肢と同様に「企業や団体等が運営している民間の学童保育」と記載した方が分かりやすい。
藤原委員	【資料3-2】「問7」について 選択肢に「9. 京都市の放課後まなび教室」とあるが、放課後まなび教室は平日に実施しているため、休日の過ごし方として選択されることはない。除外してはどうか。
國重委員	学童クラブの場合、「土曜日」の利用は極端に少なく、夏休み冬休み等、長期休業中の利用は極端に増加する傾向にある。この設問の休日とは、どの休日を指すのか分かりにくい。
和泉委員	保護者の立場としては、長期休業中の過ごし方も調査してほしい。長期休業中の平日において、午前中の預け先を見つけるのに苦慮しておられる保護者もいる。実態の調査に繋がるのではないかと。
神部会長	選択肢を記入する表については、「土曜日」、「日曜祝日」、「長期休業」で分けてはどうか。設問中の「あてはまるものすべてに○」という文言は削除する必要がある。

木戸委員	問7の設問の文言について、どのように過ごしているかと問われているが、回答は過ごしている場所を聞いているものであるため、「どのような場所で過ごしていますか」に修正する方がよい。
中西委員	【資料3-2】「問10(2)」について 放課後まなび教室において、小学校1年生は2学期からの募集が多い。1学期にアンケートを実施するのであれば、この設問の文章のとおりでよいが、既に募集を開始している場合、保護者が混乱する可能性がある。「今後利用を考えている／考えていない」という文章にすれば、誤解も生じにくい。
中西委員	【資料3-2】「問6(1)」について 項目の中に、「自宅」や「友達の家」があるが、頻度を答える選択肢のうち、「利用していない」という表現は適切ではないのではないかと。「利用していない」ではなく「0日」と数量を示す形に修正してはどうか。
和泉委員	「利用していない」を「過ごしていない」に修正するのも一つと考える。
木戸委員	回答する立場として、数字の並びで錯覚を起こすこともある。頻度が高いものには大きい数字を当てはめ、頻度が低いものは小さい数字を当てはめる方が、回答者も分かりやすいのではないかと。紙面上も表の余白が少なく、大変細かく見えるので、数字の羅列では誤解を招く恐れがある。
神部会長	数字の並びについて変更するのは賛成であるが、前回調査との比較を考え、正確な分析をするために、選択肢や設問の変更は極力避けた方がよい場合もある。選択肢の並び順が変わっただけでも分析結果に影響を及ぼす可能性がある。しかしながら、今後の調査のことも踏まえて、より回答者が答えやすいように表現を変更することも必要。
稲川委員	問12の表のように、表に余白を持たせるなど、見えやすく工夫してはどうか。問6の表については、木戸委員の意見にもあったが、余白が少ない中に数字の羅列となっており、分かり難い。
神部会長	他の設問との兼ね合いにより、どの程度、表のデザインを変えられるかということにもなるため、修正については、委員からの御意見を参考にしてもらい形で、事務局で検討いただきたい。また、表の中の文言について、頻度を問う項目については、「利用していない」という表現ではなく、「0日」、又は「過ごしていない」という表現案を提案したい。

和泉委員	【資料３－２】「問８(２)」について 平日と土日で習い事に通わせる目的や理由が分かれる。平日は託児所代わりにする人も多いが、土日は子どもの体験や楽しみのために通わせていることも多い。問７の回答方法を参照し、平日と休日それぞれで選択肢を答える表を作った方がよいのではないか。
神部会長	表の項目を問７と同様に、「平日」、「土曜」、「日曜祝日」で分けて番号を選んでいただいてはどうか。
國重委員	【資料３－２】「問９～問１０」について 問８では、学習塾や習い事に通わせている理由と期待することを聞いている。問９問１０に係る設問においても、学童クラブ及び放課後まなび教室、それぞれの事業について、利用者やその保護者が各事業に何を期待しているのかを調査することに意義があるのではないかと。「安心できる居場所」などの選択肢を設け、各事業における利用している理由や期待しているものを把握いただきたい。
神部会長	「学童クラブ／放課後まなび教室に期待すること」を設問として追加することには賛成である。各事業について、本来、事業を利用したことによる変化を問う設問があればより良いが、期待するものを問う設問でも、調査票に答える保護者や調査結果を見る保護者に対して、潜在的なニーズを刺激することができる。また、期待しているものが分かれば、事業を行う者にとっても有意義なものになる。要望を問う設問の選択肢等と重複しないか精査いただき、設問の追加について、事務局にて検討いただきたい。
國重委員	【資料３－２】「問８」について 学習塾や習い事の頻度について問う設問があった方が、より正確な分析ができるのではないかと。
事務局	問６の選択肢で、平日における習い事の頻度は調査している。土日の習い事の頻度についても、問７の休日の過ごし方の設問に学習塾や習い事を選択肢があるため、頻度の集計は可能となる。
國重委員	【資料３－１】児童館に係る設問削除について 今回の調査では児童館に関する設問が削除されている。放課後まなび教室にも学童クラブにも行っていない子ども達が過ごす場所として児童館も重要。削除した理由について、確認したい。

事務局	質問数を精査した結果である。まず、前回調査では、児童館の認知度を調査していたが、集計結果における認知度に関わらず、政策を広報していくことが施策展開として重要になってくる。政策の方向性が集計結果に左右されないため、削除させていただいた。別の調査で児童館の乳幼児利用について調査しており、補完することができるとも考えている。また、前回調査で児童館を利用しない理由を設問として設けていたが「利用する必要がない」という回答が多いなど、回答結果を施策の向上に反映させていくことに難しさを感じる内容であった。そのため、調査項目を設定するのであれば、どうすれば児童館の利用に繋がっていくかという視点で設問を設定する必要があると考えている。
國重委員	子ども達が自由に利用できる施設としては児童館の認知度が低いのが課題である。前回調査での児童館を「利用する必要がない」という選択肢の設定は適切ではなかったのではないかと。児童館に係る項目全てを削除するのではなく、選択肢の修正等を検討するべきではないかと。
事務局	設問を追加するのであれば、学童クラブ、放課後まなび教室両事業と同様に、利用の有無から確認することも検討したい。利用していない方が何を児童館に期待しているのかを確認するような設問としたい。
田島委員	認知度について、PTA を例に挙げると、任意加入が周知されたことに伴い、PTA が何をやっているか分からないという理由で入会しない保護者がいる。放課後まなび教室や学童クラブ、児童館においても、どのような機能を有しているのか、実態を知ることによって利用を考える保護者も増えるのではないかと。
和泉委員	児童館の機能については保護者が自ら調べないと分からないのが現状。特に私立小学校の保護者は情報を得られる手段が少なく、初めから利用を諦めて「利用する必要がない」と答えている人もいるのではないかと。利用方法などを知らない人もいる。
木戸委員	児童館に関する設問がなくなってしまうことで回答者が事業を知るきっかけが狭まってしまう恐れがある。放課後まなび教室や学童クラブは登録をして利用するという手間があるが、児童館は登録しなくても利用できる。児童館の利用のしやすさがもう少し広まれば、児童館も放課後の居場所として認知されると思う。
國重委員	児童館と学童クラブが同一のものであるという捉え方がまだまだ一般的。児童館は誰でも利用できるということを認知してもらうために、設問として入れていただきたい。児童館について、誰でも利用できることを知っているかという設問もあればより良い。

神部会長	実際に児童館運営に携わっている委員からの意見であることも鑑み、設問を絞ることも必要であるが、事務局には設問を追加することを検討いただきたい。利用の有無、認知度、利用していない理由、利用している人は何を期待しているのか、誰でも利用できることを知っているか、といった内容で考えていただきたい。
國重委員	【資料３－２】地域社会に係る設問の必要性について 学童クラブ、放課後まなび教室、児童館、学習塾や習い事以外の放課後の過ごし方として、公園など地域で過ごすという子どももいるのではないかと考える。この観点で地域社会に対する何かしらの不安感があるのではないかと考える。この観点で地域社会に対する不安や期待を問う設問があってもよいのではないかと考える。放課後の過ごし方に関する調査という全体の調査の主旨としては調査するべきではないかと考える。
神部会長	他の調査で分析はしていないのか。
事務局	他の調査に子どもを遊ばせることができる場所を問う設問を設けることで、補うことができるのではないかと考えている。
神部会長	学童クラブ、児童館、放課後まなび教室や学校が子どもの居場所として求められている理由は、見守りを行う大人がいることによる安心感があるからではないか。冒頭１ページの基礎調査の中で「こども達だけで遊ばせることに不安がありますか」という設問を入れてみてはどうか。設問と表のレイアウト、施策を作っていく上で他の調査との兼ね合いもあると思われるので、当部会でこのような意見が出たことを踏まえ、検討いただきたい。
	以上